

かすみがうら子どもミライ学習

私のミライ 故郷のミライ



かすみがうら市

(中学校名)

(名前)

— 目 次 —

かすみがうら市について	・・・・・・・・ 1
かすみがうら市の資源	・・・・・・・・ 2
日本の人口の状況	・・・・・・・・ 3
かすみがうら市の人口の現状	・・・・・・・・ 4
このまま少子高齢化・東京圏への集中が進むとどうなるの？	・・ 6
地方創生に向けたかすみがうら市のビジョン・戦略	・・・・・・・・ 8
地域で輝く仕事人	・・・・・・・・ 10

かすみがうら市について

地勢

- かすみがうら市は、東西に約 19.5km、南北に約 16km、総面積は、156.60km²(うち霞ヶ浦水面の面積は 37.87 km²)で、わが国第 2 位の面積を誇る湖「霞ヶ浦」と筑波山系南麓には含まれています。
- 西側は土浦市、北側は石岡市に隣接し、首都東京へ約 70km、県都水戸市へ約 30km、つくば市へ約 10km の距離に位置し、幹線交通網としては JR 常磐線、常磐自動車道などを有し、**立地条件に恵まれた田園都市**です。

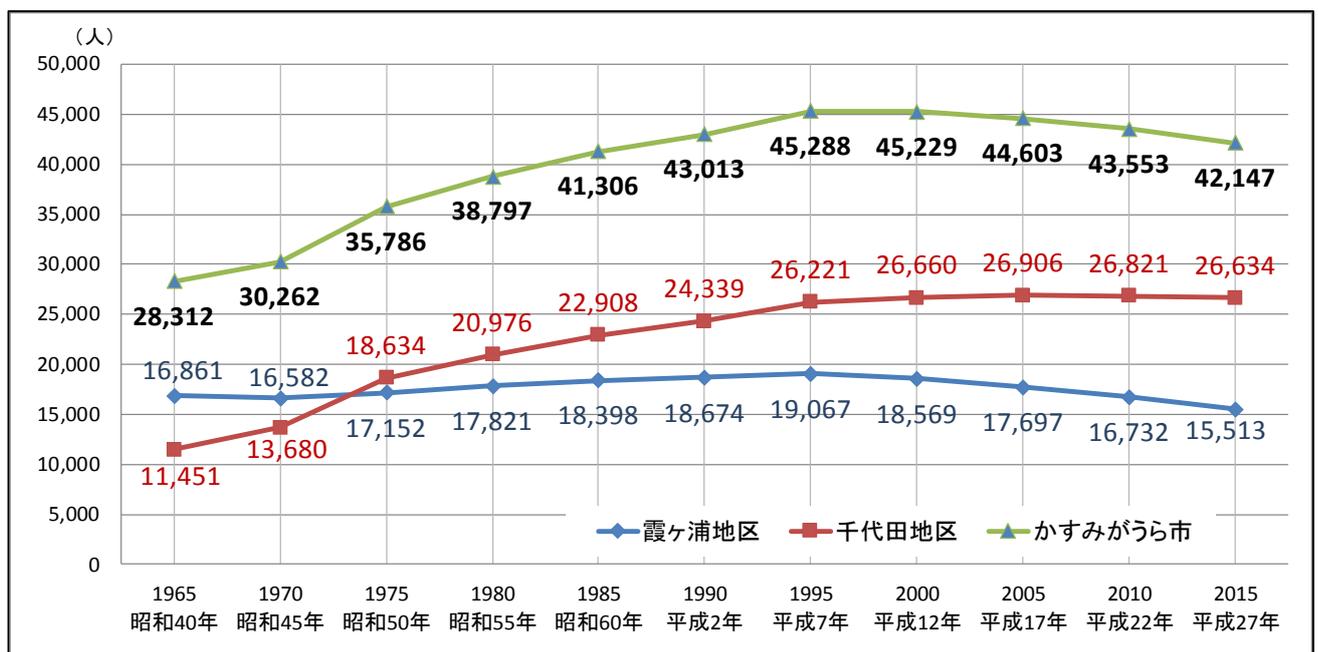


気候・歴史

- 気候は、霞ヶ浦や筑波山系の山々の影響を受けて、**冬期は比較的暖かく夏期は比較的涼しく、台風や霜、雪などの被害も比較的少ない地域**で、温暖な気候に恵まれています。
- 縄文時代以前から人々の暮らしが展開されており、中世から江戸時代にかけては、霞ヶ浦周辺の農業・漁業の発達や、本陣(大名の宿)が設けられた稻吉宿など水戸街道沿道の繁栄に伴い発展してきました。平成 17 年に千代田町と霞ヶ浦町が合併し、現在の「かすみがうら市」となりました。

人口

- かすみがうら市の人口は、平成 7 年まで増加していましたが、それ以降は減少となり、平成 27 年の国勢調査では 42,147 人(平成 7 年の人口と比べ、3,141 人少ない)となっており、**近年減少傾向**となっています。

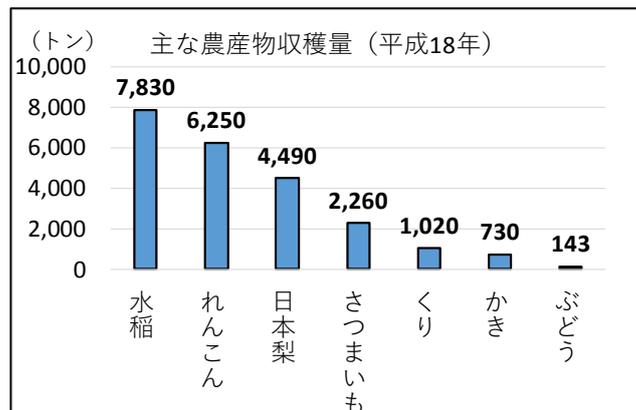


出典：総務省「国勢調査」

かすみがうら市の資源

豊かな農産物

- 果樹で全国的に知られている、かすみがうら市。植物の南限と北限が重なり、温暖な気候に恵まれた自然環境のもとで、梨にぶどう、栗、柿、ブルーベリー、いちごなど、実に多彩な果実が生産されています。筑波山系のなだらかな台地に広がる果樹園は、季節ごとに表情を変え、低地には、水稲やレンコンなどの水田、さつまいもなどの畑が広がっています。



霞ヶ浦の恵み

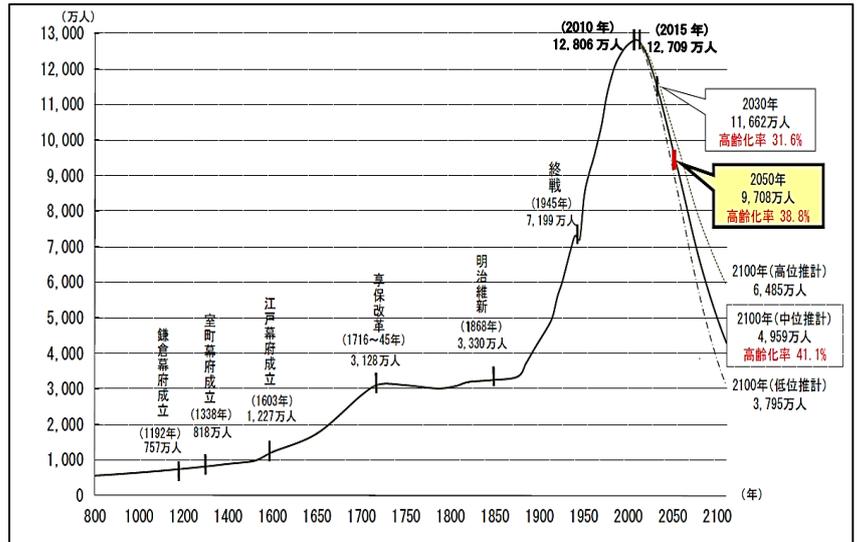
- 水郷筑波国定公園に指定されている霞ヶ浦は、豊かな漁場として、古くから人々の暮らしを支えてきました。現在も霞ヶ浦沿岸では、ワカサギ、シラウオ、えび、はぜなどの漁業が行われており、霞ヶ浦で獲れた新鮮な素材を使った水産加工品として佃煮、煮干しなどは品質の良さから多くの方に親しまれています。
- 白く大きな帆をふくらませて、ゆうゆうと湖面を走る帆引き船は、本市に生まれた折本良平氏によって考案され、ワカサギ漁の主役として一世を風靡ふうびしました。帆引き船を使った漁は、一度衰退したものの重要な文化的遺産であることから、観光帆引き船として復活し、これからも本市が誇る文化を伝えていくため多くの方が頑張っています。
- 湖岸には、水田やハス田が広がり、白鳥をはじめ、多くの水鳥も飛来する環境となっており、その自然豊かな風景は多くの人々をひきつけています。また、つくば霞ヶ浦りんりんロードが整備され、多くのサイクリストたちが訪れています。



日本の人口の状況

総人口の減少

- わが国の総人口は平成 27 年 10 月 1 日現在、約 1 億 2,709 万人（総務省統計局「平成 27 年国勢調査結果」）となっています。近年、わが国の総人口は減少傾向となっており、このまま減少が続くと、2100 年には総人口が 5 千万人より少なくなり、明治期末頃の人口と同じくらいとなってしまふと予想されています。

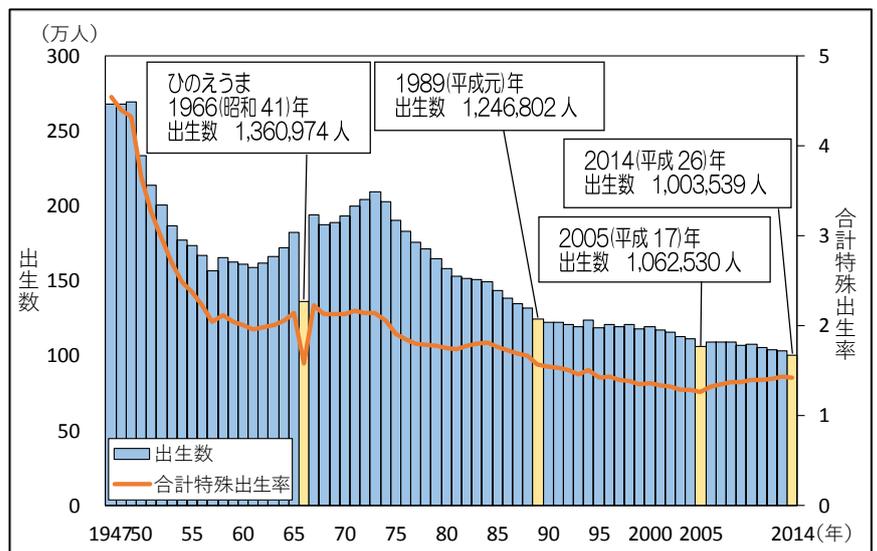


出典：総務省「国勢調査」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」（1974年）
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」

高齢者の増加・若者の減少

- 高齢者(65歳以上の方)の数は 3,347 万人(平成 27 年 10 月 1 日現在)であり、総人口の 27% が高齢者ということになります。わが国では、世界に例を見ない速度で高齢化が進行し、2060 年には高齢化率は約 40% となり、2.5 人に 1 人が高齢者という社会になると予想されています。

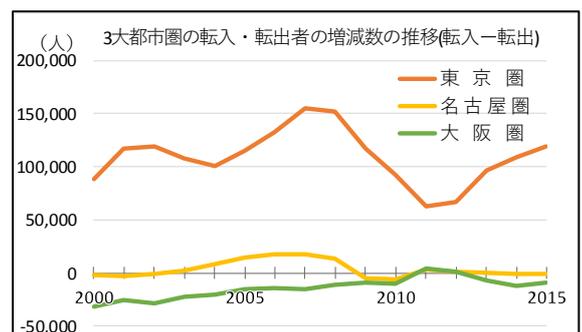
- わが国の年間の出生数は、昭和 50 年(1975 年)に 200 万人を割り込み、それ以降、毎年減少し続けています。平成 3 年(1991 年)以降は増加と減少を繰り返しながら、出生数はゆるやかな減少傾向となっています。それに伴い、出生率(15~49 歳女性の子供の平均人数)は、昭和 49 年(1974 年)以降現在まで、人口の維持に必要な「2.07」を下回っています。



出典：厚生労働省「人口動態統計」

東京圏への人口集中

- わが国の総人口は減少しているものの、東京圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)へ転入する人数は増加しています。平成 27 年 10 月 1 日現在では、東京圏の人口は 3,613 万人となり、総人口の 4 分の 1 以上を占めており、東京圏への人口の集中がみられます。

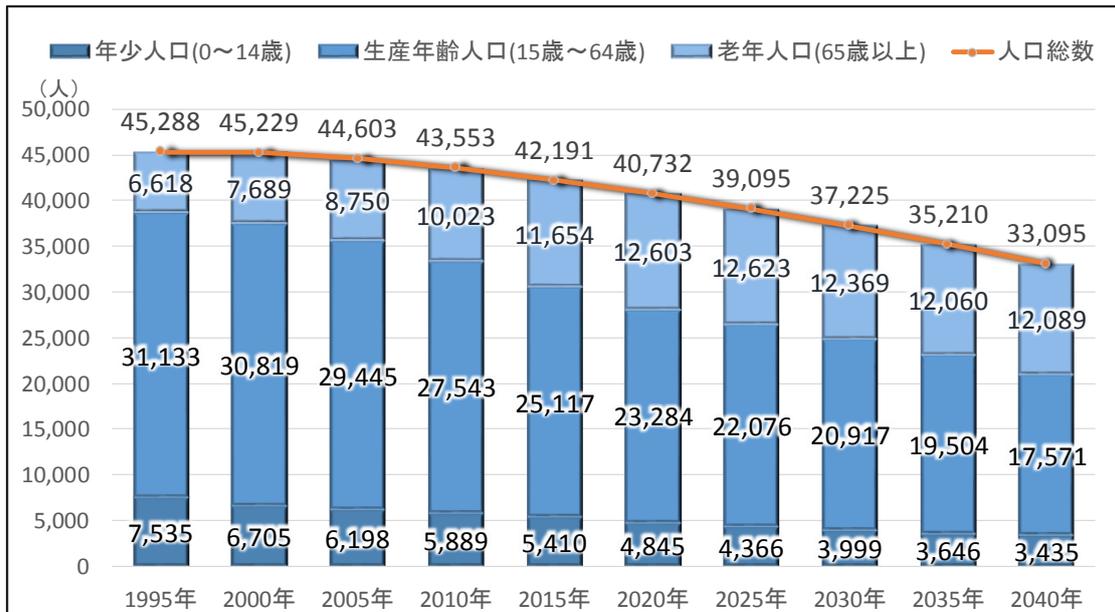


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(各年版)

かすみがうら市の人口の現状

将来の人口は減少・・・

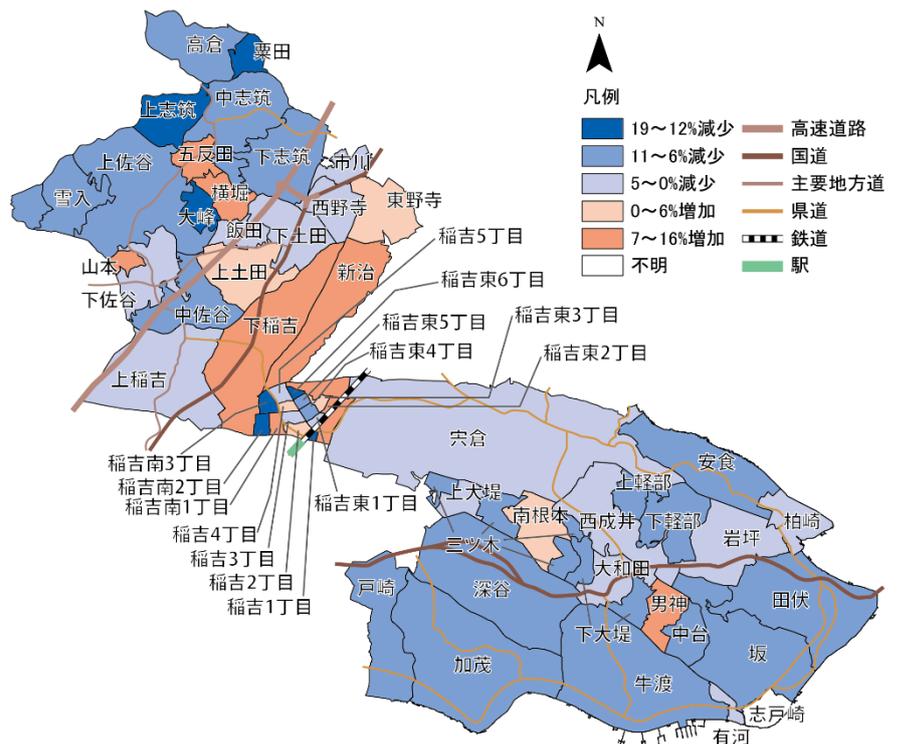
- かすみがうら市の人口は今後も減少していくと予想されています。下のグラフは、かすみがうら市の過去の人口から将来の人口を表したものです。2040年の推計人口は、2010年より約1万人少ない**33,095人**(2010年の人口から約24%減少)と予測されています。
- 減少すると考えられる人口の大半は、生産年齢(働き手世代)と言われる**15歳～64歳の人たち**と考えられます。



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

皆さんの住んでいる地域の状況

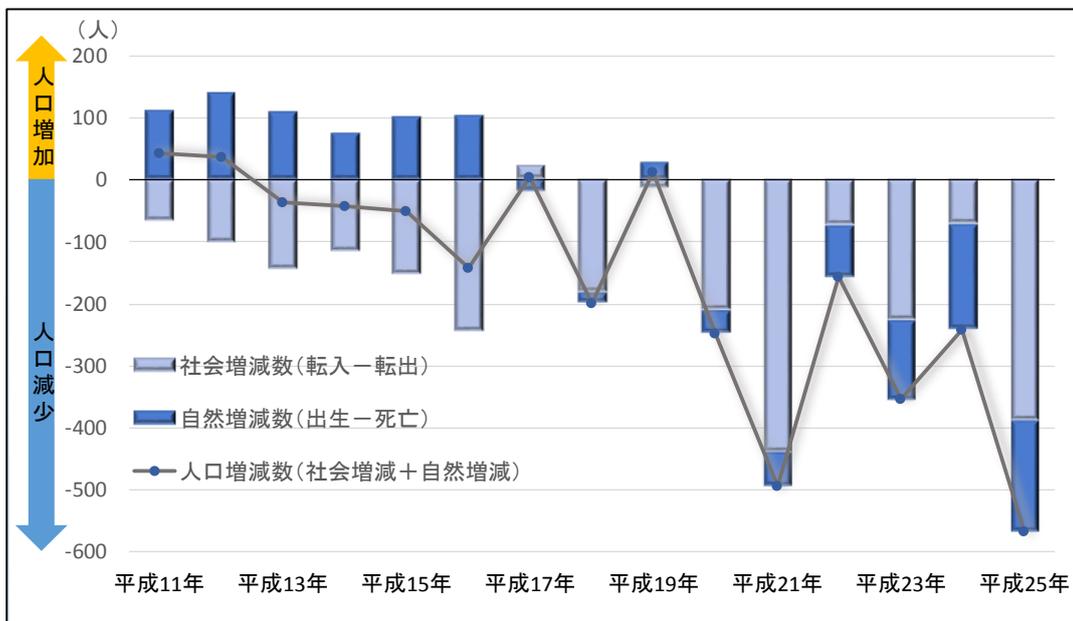
- 右の図は、平成17年から平成22年までの5年間の、かすみがうら市の地域別の人口の変化を表しています。赤い所は人口が増えた地域で、青い所は人口が減った地域となります。色の濃さは、人口の変化が大きいことを表しています。
- 神立駅周辺の地域は赤い所がいくつか見られるものの、駅から遠くなるほど、青い所が濃くなっていることが分かります。皆さんのお住まいの地域はどうでしょうか？



出典：総務省「平成17・22年国勢調査結果」を基に作成

転入・転出者数と出生・死亡者数の移り変わり

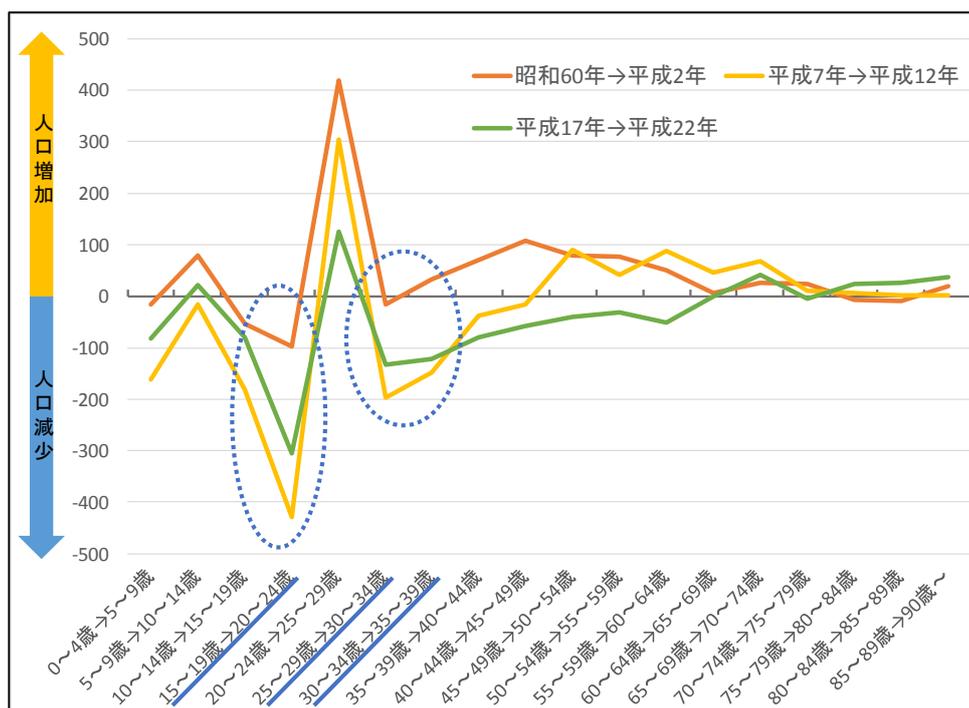
- 「かすみがうら市に転入してきた人」から「かすみがうら市外に転出した人」の数を引いた人数(社会増減数)と、「生まれた人」から「亡くなった人」の数を引いた人数(自然増減数)を比べると、平成13年頃から転出する人が多くなっていき、人口の増減がマイナスとなりました。平成20年以降は生まれる人の数が減少するとともに、亡くなった人の数が増加していき、人口の減少が加速してきています。



出典：茨城県「茨城県常住人口調査」を基に作成

ふるさとを離れる若者たち

- かすみがうら市では、大学等に進学し、就職する年齢期(15~19歳の若者が20~24歳となる5年間)が人口流出のピークとなっています。近年は20代後半から30代の子育て世代も市外に流出している傾向がみられます。



出典：総務省「国勢調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

このまま少子高齢化・東京圏への集中が進むとどうなるの？

悪いことばかりではないかも…

- もし、このまま「わが国の総人口の減少」「高齢者の増加」「若者の減少」「東京圏への人口集中」が続いても、悪いことばかりではないかもしれません。例えば、渋滞が減る、満員電車が少なくなる、少人数教育の実現で教育内容が充実する、自然・地球環境にも優しいなどが考えられます。しかし、人口減少は深刻な問題なのです！

人口が減少すると…

- 高齢者の増加、若者の減少、東京圏への人口集中により、以下の問題が起こると考えられます。

〈生産活動の停滞〉

モノを生産したり、サービスを供給できる人、つまり働くことができる人が少なくなるため、生産活動の停滞につながり、経済の国際的な競争力も低下してしまいます。

〈生活関連サービスの縮小〉

みなさんが日常生活を送るために必要な各種サービス(商店・飲食・娯楽・医療等)は、一定の人口のもとに成り立っています。人口の減少により、こうした生活関連サービスの利用客が減る場合には、地域からサービス産業の撤退が進み、生活に必要な商品やサービスを入手することが困難になるなど、日々の生活が不便になるおそれがあります。



〈行政サービス水準の低下〉

人口減少による経済・産業活動の縮小によって、市区町村の税収入は減少する一方で、高齢化の進行から福祉など行政の出費の増加が見込まれており、市区町村の財政はますます厳しくなっていくと予想されます。こうした状況が続いた場合、それまで受けられていた行政サービス(図書館の利用など)が廃止又は有料化される場合も考えられます。



〈働く場・働く機会の減少〉

「生活関連サービスの縮小」と「行政サービス水準の低下」によって、商店・飲食店・病院・学校等が減少することで、現在よりも働く場の選択肢が少なくなると予想されます。働くことができる年齢の人が少なくなると予測されているにも関わらず、働く場の減少により、自分がなりたい職業に就くことも難しくなる場合があります。



〈地域公共交通の撤退・縮小〉

人口減少にともない、通勤通学者も減少し、地方の鉄道や路線バスにおいて、撤退や運行回数の減少が予想されます。高齢化の進行により、自家用車を運転できない高齢者等の移動手段として公共交通の重要性が増大することも考えられるため、**地域公共交通の衰退が地域の生活に与える影響は大きいもの**となっていくます。



〈空き家・空き店舗などの増加〉

人口が減少する一方で、住宅数は増加しており、全国的に空き家の数は増加しています。また、地域の経済・産業活動の縮小や後継者不足などによって空き店舗なども増加しています。空き家・空き店舗などが増えることによって、**地域の景観の悪化、治安の悪化、倒壊や火災発生**といった防災上の問題などが発生し、**地域の魅力が低下**してしまいます。



〈地域コミュニティの低下〉

児童・生徒数の減少が進むことで、学級数の減少、クラスの少人数化が予想され、学校の統廃合がさらに進むと考えられます。また、地域の歴史やお祭りなどの伝統文化を未来に伝えていくことも困難となり、住民同士の交流の機会が減少することで、**地域のにぎわいや地域への愛着が失われて**いってしまいます。

では、人口減少による問題を引き起こさないようにするにはどうすれば良いのでしょうか？

これからも元気なかすみがうら市でいるために、「地方創生」が必要！

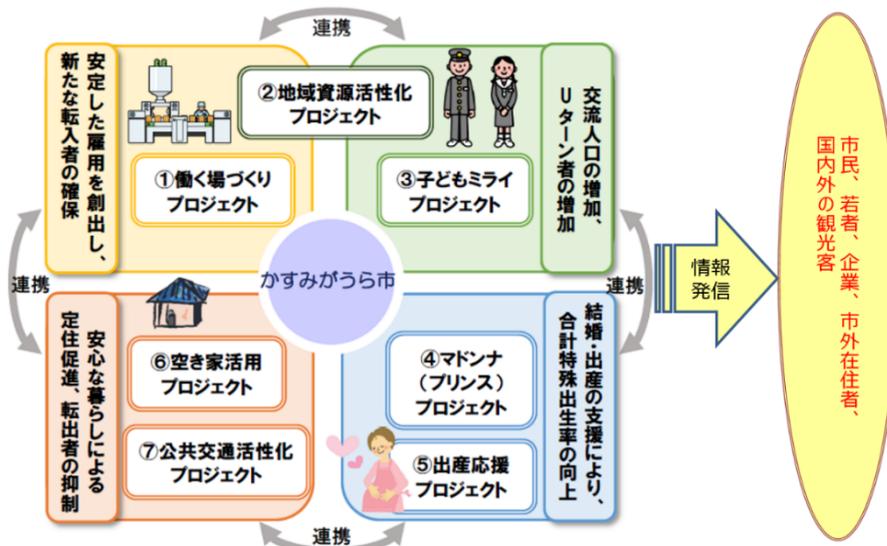
- 人口減少の大きな原因は、「地方から大都市への人口流出」と「出生率の低さ(生まれる子どもの人数の減少)」に関係があると考えられています。働く場所が少ない、子育てしたい環境が少ない、地域の魅力が少ない、または、認識されていないといった要因から、若い人は利便性の高い東京などの大都市へ引っ越してしまっています。地域の人口減少を止めるには、**若い人が生活・結婚・子育てのしやすい環境づくり**が大切なこととなります。
- 人口減少を抑制し、**地域が元気になるために地域の特徴を活かして魅力的な地域を創り上げ、地域を元気にすることを「地方創生」と**言います。若い人に住みやすい街だ！魅力的な街だ！と思ってもらうために、地域の特徴を活かした「地方創生」が必要なのです。これから、かすみがうら市では、地方創生の取組みを積極的に推進し、将来にわたって元気なかすみがうら市を維持することを目指していきます。



地方創生に向けたかすみがうら市のビジョン・戦略

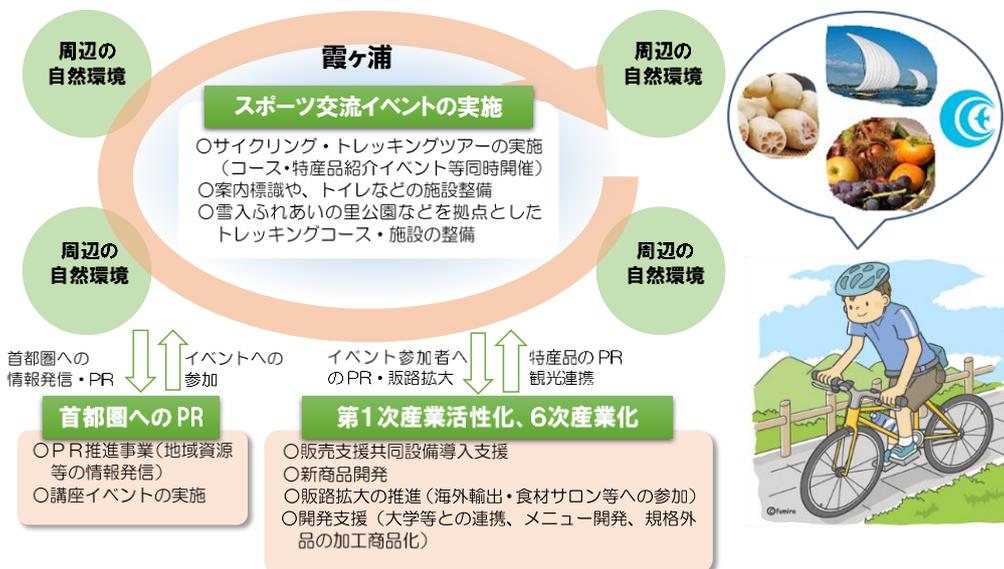
4つの目標・7つの重点プロジェクト

- かすみがうら市では、地方創生に向けて、「しごとづくり」「ひとの流れ」「結婚・出産・子育て」「まちづくり」に関する4つの基本目標を定めました。
- さらに、4つの基本目標の実現に向けて、7つの重点プロジェクトを推進し、2060年に約3万人の人口を維持することを目指しています。（もし、地方創生に取り組まず、何も手を打たない場合の2060年の推計人口は、約2万5千人になると予測されています。）



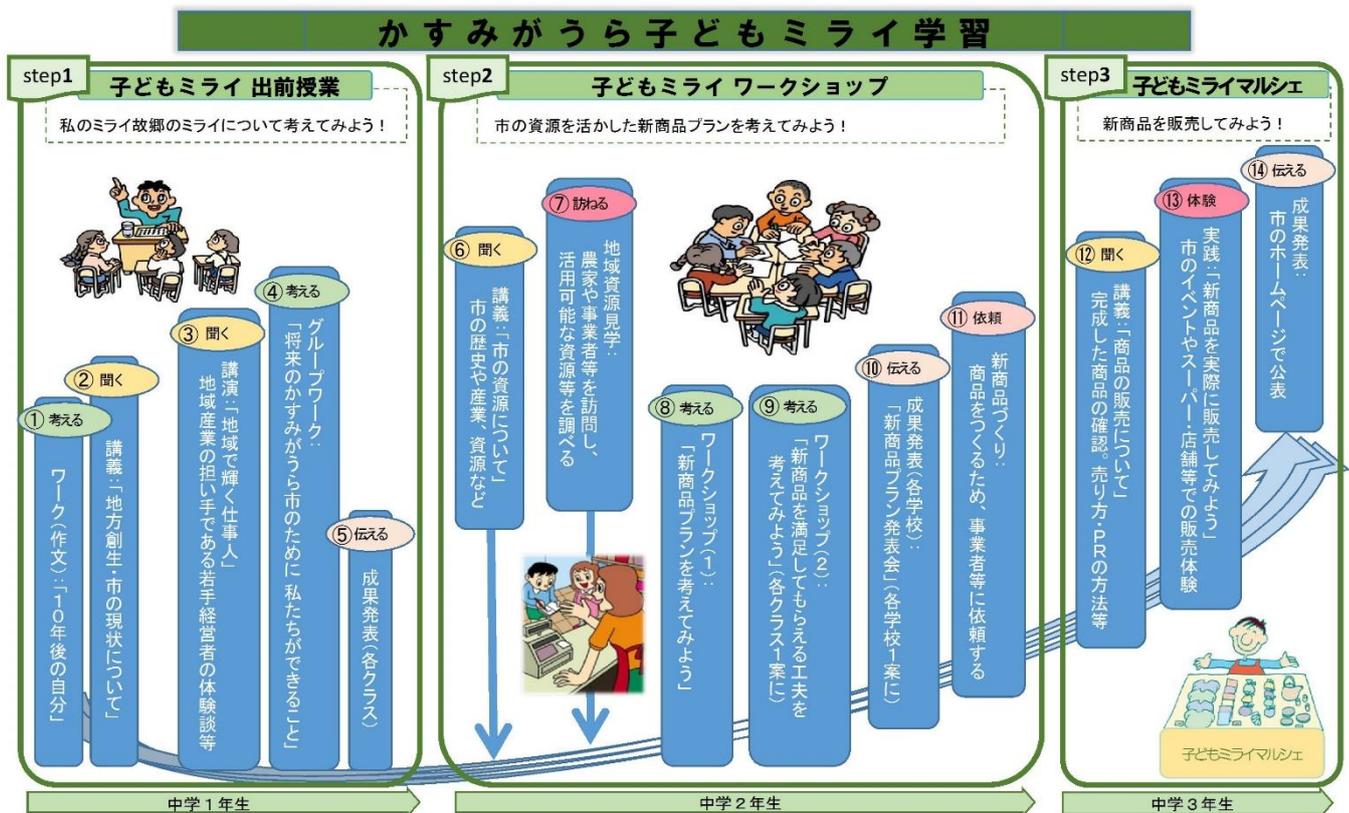
重点プロジェクトの紹介:「地域資源活性化プロジェクト」

- 「地域資源活性化プロジェクト」は、本市の魅力的な資源(フルーツ、レンコン、わかさぎなど)を使って、観光客を増やしたり、街ににぎわいを創ったりすることです。
- 具体的には、霞ヶ浦を巡るサイクリングコースや周辺の自然を活かしたスポーツイベント等により、観光客を増やし、新しい人の流れやにぎわいを創ります。
- また、フルーツ等の農水産物を活かして、特産品を紹介するイベントの開催や観光客が様々な体験が出来るようにして、地域の産業の活性化と働く場を作ることを目指します。



重点プロジェクトの紹介:「子どもミライプロジェクト」

- 「子どもミライプロジェクト」は、市の現状や課題などを聞いたり、地域で活躍している方々の姿を見たりしながら、仕事や生き方について学ぶとともに、地域の資源を活かしたものづくりの取り組みを行います。それにより、故郷を愛する気持ちと誇りに思う心を育み、未来のまちづくりを考えることのできる人材となってもらうことを目的としています。
- 具体的には、「かすみがうら子どもミライ学習」として、地域で働いている大人から仕事や生活のことについて話を聞く「子どもミライ 出前授業」、市の資源を活かした新商品などを考える「子どもミライ ワークショップ」、実際に新商品を販売してみる「子どもミライ マルシェ」を行います。



地域で輝く仕事人



会社役員・農業者・研究者・教員

：(株)野口農園

野口 憲一さん

(博士〈社会学〉)

〈下大津小学校/南中学校 卒業〉



家業のれんこん農園で農作業や企画・営業・広報などを務めながら、大学で社会学や民俗学について授業を担当しつつ研究者として活動しています。

農業分野では、さまざまなチャレンジができること、研究者としては意見を社会に発表できること、教員としては全ての活動についての経験を「自由」に語れることなど、全ての職業それぞれにやりがいがあります。



野菜、花き生産：小松崎園芸

小松崎 友二さん

〈佐賀小学校/北中学校 卒業〉



主にグラジオラスなどの切り花や根菜類を栽培しています。一般的に農業は大変なイメージがあると思いますが、毎年の成果で自己成長を感じられ、時には全国各地や海外での交流などにも行くこともあり、やりがいの大きな職業だと思います。

かすみがうら市は、東京から近いながら、閑静で暮らしやすいところです。ビジネスとしても多くのチャンスがある、贅沢な場所だと思います。



生栗、サツマイモ、落花生、青果物卸問屋・

加工品製造販売：(株)久松哲男商店

久松 公生さん

〈下稲吉小学校/下稲吉中学校 卒業〉



栗、さつまいも、落花生など、かすみがうら市をはじめ、茨城県産の特産品を生産、農家契約をし、全国販売しているほか、自社農園で収穫した農産物では直火鍋で丁寧に仕上げた加工品を製造・販売しております。

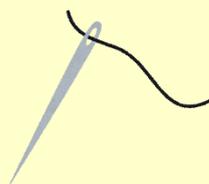
加工品は市の推奨品(湖山の宝)になっており、自家用をはじめ、お土産や季節のあいさつ用にとお買い求めているいております。「おいしい！」の一言が仕事の原動力。これからも安心・安全、チャレンジ精神を持って市内産の美味しさを広めていきたいです。



縫製加工業：(有)ソーイングスタジオセキグチ

関口 慎さん

〈下稲吉小学校/下稲吉中学校 卒業〉



主な取引先であるコレクションブランドやセレクトショップなどのアパレルメーカーからの依頼により、「生地」を“裁断”・“縫製”をして「洋服」に仕上げる仕事をしています。

衣装も手掛けていることもあり、有名アーティストや俳優が弊社で扱った洋服を着てメディアに出ることもありますので、とてもやりがいのある仕事です。

ほとんどのお客様が都内ですが、かすみがうら市は立地が良く、青山、渋谷、原宿へも1時間～1時間半で行くことができるため、業務上とても便利です。



建設業・かすみがうら市議会議員：(株) 千和

櫻井 繁行さん

〈七会小学校/千代田中学校 卒業〉



祖父の代から続く建設会社で働いており、主に道路や上下水道管を整備したりする仕事をしています。天候や工期との戦いなど、大変なことはありますが、達成した時の満足感は計り知れません。

また、現在16人いるかすみがうら市の議員の中で最も若い議員として、かすみがうら市の発展のために働いています。

地域に育てていただいた私にとって、地域を大事に想い、地域貢献を行っていくことは恩返しだと思っています。このような気持ちを持つことが出来たのも、かすみがうら市に住んでいたからこそだと感じています。



洋菓子製造販売：パティスリープレザン

柴崎 英樹さん

〈下稲吉東小学校/下稲吉中学校 卒業〉



パティシエは幼い頃からの夢でした。つくば市や阿見町の有名店で修行をして、店を持つなら絶対地元にといい開店しました。幼なじみや昔からの知り合いが、買い物はもちろん宣伝もしてくれてとてもありがたく感じています。

栗や梨、ブルーベリーなど地場産の果物を使ったスイーツも数多く商品化しており、新商品の開発は最もやりがいを感じる時間。地域の活性化の一助となればうれしいです。



弁護士：尾池・伊藤法律事務所

伊藤 しのぶさん

〈下稲吉東小学校 3年生まで在学〉



弁護士に憧れ始めたのは小学校高学年のころでした。困ったことがあったら気軽に相談できるような弁護士になりたいという想いと、自然にあふれたかすみがうら市に戻りたいという想いから、夫と共にかすみがうら市で唯一の弁護士事務所を構えました。

弁護士の仕事は刑事裁判の法廷に立ったり、トラブルの解決のために交渉や裁判をしたりと多種多様。気軽に相談に来ていただけるような事務所を目指し日々業務にあたっています。



飲食店経営：PIZZERIA <一ま

萩谷 敦子さん

〈下稲吉東小学校/下稲吉中学校 卒業〉



親が個人商店を営んでいて近所の方が集う中で育ったこともあり、いつかは地元でお店を開きたいと思っていました。

ピザ好きが高じてナポリピッツァ専門店を開店。小さな頃からの顔なじみの方や同級生、長男と次男の同級生ママさんたちが食べに来てくださるうえに宣伝までしてくれる！地元ならではの温かい環境に感謝しながら、美味しいピザを作り続けたいです。



シンガーソングライター

(かすみがうら市ふるさと大使、自衛隊茨城地方強化本部広報大使)

オニツカ サリーさん

〈佐賀小学校/北中学校 卒業〉



作詞や作曲をして皆さんに歌を届けるのが私の仕事です。私の歌と「何か」が融合することで、さらなる力が生まれることがこの仕事の魅力。病院、学校、地域の魅力、子どもたち…自分の作った歌が誰かの力になれることに心から幸せを感じています。

私が夢に出会えたのは25歳。都内から地元へ活動拠点を移してから多くの方に支えられて今があります。



水産加工品製造販売：貝塚忠三郎商店

貝塚 康博さん

〈佐賀小学校/北中学校 卒業〉



霞ヶ浦の豊かな恵みとして収穫したわかさぎやはぜ、海老、白魚などを創業以来100年を超える伝統の技を活かして、佃煮や煮干しに加工し、販売しています。他には、昆布やあさりなど数十種類の佃煮も製造販売しています。

霞ヶ浦の資源を有効に活用して販売につながれることに、とても魅力を感じています。また、リピーターとなってくださっているたくさんのお客様に「美味しい」と言ってもらえることが、やりがいにつながっています。



サツマイモ菓子製造販売：(株) ひのでや

佐賀 正治さん

〈牛渡小学校/南中学校 卒業〉



かすみがうら市の農産物、特にサツマイモの美味しさを国内のみならずアジアにも広める仕事をしています。生のサツマイモは親会社で全国に卸し、市の創業支援補助金(第1号)を受けて開業した小売店「サンパタータ」では、自社で加工した商品を販売しています。

サツマイモの美味しさを究極まで引き出した焼き芋「紅和み」はその甘さに驚かれ、ケーキやソフトクリームではサツマイモのスイーツとしての可能性を提示しています。また、焼き芋からつくった焼酎「美並の恵」も開発しました。かすみがうらから、サツマイモを世界へ！



~X毛~

A series of horizontal dashed lines, spaced evenly down the page, intended for handwriting practice. There are 18 lines in total, starting from the top of the page and extending to the bottom.

私のミライ 故郷のミライ

発行年月日 平成 29 年 2 月

編集・発行 かすみがうら市地方創生・事業推進担当

〒300-0192 茨城県かすみがうら市大和田 562

TEL (029) 897-1111 (代表)

FAX (029) 897-1478



かすみがうら市